

アメリカ商業銀行のクレジット・カード・ローン

松山大学 掛下達郎

1990年代以降のアメリカでは、クレジット・カード・ローンが商業銀行の最大の消費者貸付で、かつクレジット・カード担保証券が最大のアセット・バック証券になっている。クレジット・カード・ローンとは、月々の完全割賦返済を柔軟にし自由にしたクレジット・ライン形式の消費者向け銀行貸付である。

本報告では、クレジット・カード・ローンという消費にたいするクレジット・ラインを考察することによって、商業銀行による消費者貸付の回収の自由化を把握する。回収の自由化とは、川合(1965)が強調した貸付回収(還流)説をベースにした考え方である。クレジット・ラインとは、そもそも事業貸出のうち季節的貸出に用いられた信用枠を指す用語である。しかし、クレジット・ラインは、満期1年以上の事業貸出であるターム・ローンにも用いられ、現代では証券の信用取引や住宅を担保にしたホーム・エクイティ・ローンにも使われている。

クレジット・カード・ローンを考察する際に、具体的には、銀行系カードの導入、インターチェンジ・システム、チェック・クレジットとの競争、収益、流通市場(証券化)を題材にする。それは、クレジット・カード・ローンに付随したインターチェンジ・システムや流通市場が、クレジット・カード・ローンの展開とともに産み出されているからである。

こうしたクレジット・カード・ローンのダイナミズムは、クレジット・カード・ローンの回収(還流)に関連していると報告者は考えている。たとえば、流通市場においても、貸付の回収(還流)の拡大・先取りがおこなわれているのである。

Mandell, Lewis (1990). *The Credit Card Industry: A History*, Boston: Twayne Publishers. (根本忠明・荒川隆訳『アメリカクレジット産業の歴史』日本経済評論社、2000年)

Nocera, Joseph (1994), *A Piece of the Action: How the Middle Class Joined the Money Class*, New York: Simon & Schuster. (野村総合研究所訳『アメリカ金融革命の群像』野村総合研究所、1997年)

川合一郎(1965)、『信用制度とインフレーション』有斐閣。(『川合一郎著作集 第五巻』有斐閣、1981年、所収)